

# 文化行政にふさわしい検証・評価に向けた論点整理

**現状**

- ・毎年度、各事業の予算額、実績(実施か所数や回数)をとりまとめて、文化振興会議に報告するとともに、ホームページで公表。
- ・成果指標(アウトカム)を設定し、アンケート等により調査し、計画期間の最終年度に達成度を評価。

**課題**

- ・個別事業については、一部を除き、評価基準(指標・目標)を設定しておらず、事業の進行管理に終わっている。
- ・一般的な施策評価と同じ手法であり、文化行政にふさわしい(文化行政ならではの)検証、評価となっていない。
- ・検証・評価(Check)から見直し・改善(Action)への流れがシステム化されておらず、あまり機能していない。

## 論点

(対応案)

### ●文化行政の評価には、どのような観点が必要か。

(参考/文化審議会答申)

- \*各施策の特性を十分に踏まえ、定量的な評価のみならず定性的な評価も活用し、質的側面を含む適切な評価を行う。
- \*専門家による審査、事後評価、調査研究等の機能を大幅に強化し、諸外国のアーティストバンクに相当する新たな仕組みを導入する。

### ●個別事業への評価基準(指標・目標)の設定

・事業の類型等に応じ、どのような指標が適切か?

【参考】

(事業類型の例) 施設運営、活動の場の提供、イベント等

- 定量的指標 …… 実施回数、アンケート調査 など
- 定性的指標 …… 3段階評価(○△×) など

### ●評価手法の構築(評価者等)

・評価に客観性や、専門性を反映させる手法は?

(検討例)

- 一次評価: 府文化課による自己評価
- 二次評価: 専門性を持つ者による第三者評価 (文化振興会議委員、専門委員)

現在の指標例 (アウトカム)

- ・おおさかカンヴァス推進事業 (活動の場の提供)
- ・上方演芸資料館 (ワッハ上方) (施設運営)
- ・メセナ自動販売機 (民間との連携)
- ・アーティストバンク (情報発信)
- ・御堂筋イルミネーション、御堂筋 kappo (イベント)

- 目標: 応募件数 100 件
- 目標: 入館者数 40 万人/年
- 目標: 設置場所の新規開拓 5ヶ所
- 目標: ホームページアクセス件数 500 件/月
- 目標: 来訪者数 (前年を超える規模)

※アウトカムは、アンケートによる府民満足度の調査等

## 文化振興新戦略(H22~24)のPDCAサイクル(イメージ)

評価サイクル(計画期間 22-24)



評価指標 (アウトカム)

○項目・目標の設定 (コンセプトに基づき設定) → ○達成度評価

【総合指標】「文化自由都市、大阪」になっていると思う府民の割合 (%) H22 50.6 ⇒ 目標 H24 66

個別指標

- \*大阪が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市になっていると思う府民の割合 30.9(H22)
- \*大阪の都市全体が活動・発表の場になっていると思う府民の割合 26.9(H22)
- \*将来の夢や目標をもっている子どもの割合 69.2(H21)
- \*大阪が文化的に愛着・誇りを持てる都市であると思う府民の割合 60.8(H22)
- \*自分で住んでいる地域に愛着を感じている府民の割合 71.4(H21)
- \*大阪が楽しいまちだと思っている人の割合 44.5(H21)

評価サイクル(毎年度)



P 新戦略施策集に位置付け  
⇒D 実施  
⇒C 検証・評価  
⇒A 見直し・改善

P 改善事業、新規事業を施策集に位置付け  
⇒D 実施  
⇒C 検証・評価  
⇒A 見直し・改善

P  
⇒D 同左  
⇒C  
⇒A